

姉妹都市締結50周年記念 安東市訪問事業参加報告書

議員 後藤 健一郎

期 間	令和6年4月23日（火）～ 26日（金）
訪問先	韓国 安東市
感想・所見など 韓国領事から「寒河江市と気候がよく似ている大韓民国・安東市で、さくらんぼの栽培ができないか」という要望があったことから、本市と安東市は、昭和49年2月4日に姉妹都市を締結。 これまで主に相互訪問による人的交流を行ってきたが、姉妹都市締結50周年を迎えた今年4月23～25日に、寒河江市長や教育長、JAさがえ西村山組合長、市商工会副会長、市スポーツ協会会長、慈恩寺舞楽団、そして私達市議会議員ら総勢31名＋在日韓国民団団員13名の合計44名で、安東市を訪問した。 寒河江市役所出発から12時間後、大韓民国・安東市へ到着。安東市市役所に到着すると、大雨のなか、たくさんの市役所職員や市民の方々が並んで歓迎してくれた。 到着後すぐに行われたのが、姉妹都市親善交流の写真展示会の開幕式。これは寒河江市と安東市のまつりや風景、文化などを大きなパネルにして各市20点ずつ展示し、訪れたことがない大多数の人にも、寒河江市と安東市がどんな都市なのか両方見ることによって交流を深める目的とのこと。 元々気候がよく似ていることが姉妹都市締結のきっかけということもあり、畑では林檎の花が、道端ではツツジが咲いている等、自然の風景はかなり似ているが、文化や人の営みについては、見比べることでより詳しく知ることができるのではないかと思った。 その後、市役所会議室にて、安東市の市長をはじめとした執行部局長達および副議長をはじめとした議会の委員長方との懇談会。 そこで知ったのは、冒頭から何度も書いているが「気候が似ているため、さくらんぼが栽培できないか」ということが姉妹都市締結のきっかけとなったのだが、安東市は冬マイナス15度にもなるため、さくらんぼの栽培はほとんどされていないのだそう。代わりに、りんごの栽培が盛んで、全国第3位の生産量（収穫量）を誇っているとのことだった。 寒河江市はさくらんぼの生産量（収穫量）が全国第3位なので、位置づけ的に、寒河江のさくらんぼと安東市のりんごは同じようなものなのだろう。 また、懇談会の中では、今年5月26日に行われる寒河江市のさくらんぼマラソンに安東市職員が出場すること、そういったスポーツでの交流なども今後進めていきたいなどの話があった。 その日の午後に行われた姉妹都市締結50周年記念式典では、記念品の交換に続き「交流発展共同宣言文」の署名、図書寄贈目録贈呈式、文化公演（寒河江市・慈恩寺舞楽、安東市・河回別神グッ仮面劇）、そしてパネルパフォーマンスが行われた。 文化公演では、寒河江市側として、武具を用いて勇壮に舞う「慈恩寺舞楽・太平楽」が行われた。太平楽は国家最高の儀式である天皇陛下の即位の礼で必ず舞われるそうで、式典や奉納と言った側面があるものだと思う。	

対して安東市・河回別神グッ仮面劇は、屠殺人が牛（前脚後脚二人組のぬいぐるみ）を倒し、さばいて臓物を出して観客に売ったり、酒乱な破戒僧が娼婦をおんぶして連れ去ったりと、当時の住民の娯楽を仮面劇から覗き見ることができた。こういうところでも、お互いの文化の違いを感じることができたのではないだろうか。

翌日は安東市農協見学及び懇談会。

JAさがえ西村山で言うところの「アグリランド」のような直営のスーパーを見学させて頂いたあと、懇談会を行った。

10年ほど前に安東市では口蹄疫の発生が確認され打撃を受けたそうだが、現在はりんごの生産に加え、生姜のブランド化に取り組んでいるとのこと。

そのまま売るだけではなく、お土産としていただいたが、生姜とはちみつを合わせたシロップを販売してくとのことで、六次産業への取り組みなどについても話を聞くことができた。

全体を通して、町並みや自然の風景、食等に関しても大きな違和感がなく、姉妹都市締結のきっかけとなった「気候がよく似ている」ことを体感した訪問だった。